



皆さん、おはようございます。新しい年が明けました。今年もよろしくお願いいたします。

はじめに、皆さんも知っていることと思いますが、昨日、埼玉県を含む1都3県にコロナ感染症に係る緊急事態宣言が発令されました。年末年始も感染者数が減少せず、県内の感染状況は依然として非常に厳しい状況であり、医療提供体制も逼迫し深刻な状態です。特に川口市は今まで、一日20名前後の感染者が確認されていましたが、1月5日からは50名近い感染者が確認されています。今日から学校が始まりますが、今後、緊急な対応が必要となることがあるかもしれません。まずは改めて、皆さん一人ひとりが現状を自覚し、手洗いの徹底、換気、マスクの着用、食事中の会話の禁止など感染予防に対する行動をお願いします。また、家庭においても不要不急の外出を避け、可能な限り速やかに帰宅するなど、同様の対応をお願いします。

話は変わりますが、今年の干支は丑（うし）です。

丑年は「我慢（耐える）」、「これから発展する前触れ（芽が出る）」というような年になるといわれています。

昨年、子年（ねずみ年）に蒔いた種が芽を出して成長する時期とされ、結果につながる道をコツコツと作っていく基礎を積み上げていく時期とされているようです。

是非、そんな年にしたいものです。

さて、新年にあたり、皆さんは、今年一年どのように過ごしたいか、どんな夢をかなえようか決めましたか。

今日は「夢をかなえるゾウ」という本の中からお話したいと思います。今から随分前に出された本ですが、続編も出されていて、テレビでドラマ化もされています。

その内容ですが、自分の人生を変えたいと思っているサラリーマンが、関西弁のインドの神様ガネーシャから与えられた様々な課題を実践し、身につくまで続けるというものです。

課題は、全部で29あって、どれも簡単で当たり前のことですが、続けることが難しい課題です。例えば、「靴を磨く」「トイレ掃除をする」「その日がんばれた自分をホメる」「運が良いと口に出して言う」「身近にいる一番大事な人を喜ばせる」などです。

この「身近にいる一番大事な人を喜ばせる」に関してはガネーシャの言葉で、次のように語っています。

（ガネーシャの言葉：人間ちゅうのは不思議な生き物でな。自分にとってどうでもええ人には気い遣いよるくせに、一番お世話になった人や一番自分を好きでいてくれる人、つまり、自分にとって一番大事な人を一番ぞんざいに扱うんや。例えば・・・親や）耳が痛いですね。

そして、最後の29番目の課題、それは、「毎日、感謝する」です。少し引用してみると、

「自分の中に足りんと感じていることがあって、そこを何かで埋めようとするんやなくて、自分は十分に満たされている、自分は幸せやから、他人の中に足りないことを見つけ、そこに愛を注いでやる。・・・自分らは、お金も、名声も、地位も、名誉も、自分で手に入れると思うてるかもわからんけど、ちゃうで。むしろ逆やで。お金は他人がお前にくれるもんやろ。

名声は、他人がお前を認めたからくれるもんやろ。全部、他人がお前に与えてくれるもんなんや」

「身の回りにあるもの、友達や、恋人、親、日々出会う人、動物、空気や水、緑、それもこれも全部、自分が生きるために存在してくれてるもんや。当たり前のようにそこにあるけど、ほんまは有り難いものなんや。

朝起きた時でも、寝る前でも、いつでもええ。

親にでも、ともだちにでも、ものにでもええ。

世界をかたちづくっている何でもええから、感謝するんや。

足りてない自分の心を「有り難う」で言葉で満たすんや。

ありがとう、みんなのおかげで私は満たされています。幸せです。そうやって感謝するんやで」

そして、ガネーシャの課題を、続けた平凡なサラリーマンは、くじけそうになってもガネーシャの言葉を思い出しながら、ゆっくりと前進し、自分の夢をかなえた。という話です。

どのような立場の人でも、この世の中を自分一人で生きていくことはできません。人生に必要なものは、感謝と思いやりだと思います。特に今の世の中を見るとそれを強く感じます。

誰にでもできる簡単なことを、感謝してやり続ける。それが夢をかなえる、実現する方法なのではないかと思います。

最後になりますが、1年締めくくりの学期です。何にもしなければあっという間に過ぎてしまいます。

特に3年生はあと少しをどのように過ごすかによって、高校生活が実り多かったものかそうでなかったかがはっきりするのだと思います。

一日一日を大切に過ごしてください。

それでは、今年が皆さんにとっても鳩ヶ谷高校にとっても輝かしい一年になることを祈念して挨拶とします。